

平成 2 2 年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査
分析結果報告書

結果のまとめ P. 1

結果の概要 P. 2

第 2 学 年

国 語 P. 1 6
(調査実施人数：13,766人)

数 学 P. 2 4
(調査実施人数：13,753人)

英 語 P. 4 2
(調査実施人数：13,746人)

質問紙調査 P. 5 0
(調査実施人数：13,647人)

質問紙調査回答と正答率 P. 5 7

第 1 学 年

質問紙調査 P. 6 4
(調査実施人数：14,494人)

平成 2 2 年 7 月 8 日 ~ 1 6 日実施

宮 城 県 教 育 委 員 会

平成 22 年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てる。
2 実施調査	1 学年：質問紙調査 2 学年：国語，数学，英語，質問紙調査
3 実施対象	公立(県立・石巻市立)高校 1 年生 約 15,000 人 公立(県立・石巻市立)高校 2 年生 約 14,500 人
4 実施期間	平成 22 年 7 月 8 日(木) から 7 月 16 日(金)

5 2 学年教科別学力状況調査結果の主な特徴		
教科	分析結果	共通問題 正答率
国語	基本的知識は身に付いているが、活用力、論理的に読み解く力、表現力が不足 ・既習内容や日常生活レベルの語彙などは身に付いている。 ・細部を正確に読み取り、相互に関連付けながら展開をたどり、全体の要旨を的確に捉える力を問う問題の正答率は低い。	45.7
数学	基礎・基本の定着はみられるが、それを活用・応用する力が不足 ・公式や定理をそのまま用いて答えを求めることは身に付いている。 ・図形やグラフから必要な情報を読み取り、どのような公式や定理を用いるかを思考するような問題は正答率が低い。	38.1
英語	基本的な力は身に付いているが、応用的な力は不足 ・基礎的・基本的な語彙や文法、簡単な英文のリスニングについては正答率が高い。 ・複雑な情報整理や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の正答率が低い。	41.8

6 1 学年・2 学年意識調査結果の主な特徴		7 学校をあげての活動や取組
学年	分析結果(具体的な数値は 8 ページ以降)	
1 学年	大学進学希望者は増加 受たい授業は分かる授業，興味関心が持てる授業 「授業が概ね理解できる」は 3.1 ポイントの増加 ほぼ毎日学習する生徒は 4.8 ポイントの増加 学校での宿題・課題，小テストは顕著な増加 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因は、「電話やメール」，「テレビやビデオ」。「部活動との両立」に悩む生徒も増加	「分かる授業」，「考える授業」を目標とした組織的な授業改善への取組 「過去の学習分野」の反復練習を徹底する取組 「学習の記録簿」の活用，「宿題や小テスト」等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組 県の授業力向上を支援する事業等の活用 「朝学習」，「朝読書」や「放課後の学習会」等の学校での学習時間の確保 進路希望選択や学習における悩みに対する面談指導の充実
2 学年	大学進学希望者が増加 「授業が概ね理解できる」は前年より 1.6 ポイントの減少 家庭学習の時間は 1 年次より減少，前年よりは増加傾向 ほぼ毎日学習する生徒は前年より 0.4 ポイントの増加 学校での宿題・課題，小テストは前年より顕著な増加 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因は、「テレビやビデオ」，「電話やメール」 正答率の高い生徒は，毎日一定の学習時間を確保。宿題や小テストで学習習慣を確立している。	

【考察】

2 年生の学力状況については、国語・英語における基礎的・基本的な力はある程度身に付いているが、それらを活用する力が不足している。数学については、1 年次に学習した基礎・基本の定着に、分野ごとにばらつきがあるため、応用的な力が不足している。

前年度と比較して、1 年生は、「家庭学習時間」・「授業を理解している」割合が増加している。しかし、2 年生になると 1 年次と比較して「学習していない」割合が増加傾向

学力・学習状況調査を活用し、組織的に授業改善等に取り組んだ結果、成果を上げている学校が多く、県の事業である授業力向上支援事業により、組織的に授業改善に取り組む学校が増加している。

平成22年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要

調査の概要等

第1学年

- (1) 第1学年における生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の74校の1年生, 約15,000人を対象に, 平成22年7月8日(木)から7月16日(金)までの間, 各学校で実施

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,494人

第2学年

- (1) 学習指導要領に示された指導内容の定着状況並びに第2学年における生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、各学校における学習指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の74校の2年生, 県内の約14,500人を対象に, 平成22年7月8日(木)から7月16日(金)までの間, 各学校で実施

学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語, 数学, 英語の3教科の学力状況調査
- ・国語, 数学, 英語の作問に当たっては, 高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し, 平均正答率を50%と設定して作成
- ・国語, 数学, 英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定
 - 学校選択型A問題(A問題)は基礎的・基本的な内容の設問
 - 学校選択型B問題(B問題)は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕 学校数は全日制本校70校, 定時制9校, 分校3校, 岩ヶ崎鷺沢校舎を1校の計83として集計した。

国語 13,766人 (A問題選択56校7,000人, B問題選択27校6,766人)
数学 13,753人 (A問題選択64校8,979人, B問題選択19校4,774人)
英語 13,746人 (A問題選択59校7,706人, B問題選択24校6,040人)

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 13,647人

調査結果の概要と分析

1 2学年学力状況調査の教科別結果

国語

共通問題正答率は、45.7%

- 基礎的・基本的知識は身に付いているが、それを活用する力、論理的に読み解く力、表現力が不足
言語事項に関する設問のうち、日常生活でよく用いるレベルのものについては概ね良好
使用頻度の低い言葉、論理の展開をたどり要旨を的確に捉える力、登場人物の人間関係や心情を読み解く力を問う問題の正答率が低い。選択の漢文は今年度からの出題。古文・漢文ともに基本的な知識は身に付いている一方、知識の活用と、細部から全体を、全体から細部を正確に読み取る力はまだ不足している。

数学

共通問題正答率は、38.1%

- 1年次に学習した基礎・基本の定着度に、分野ごとのばらつきがあるため、応用力や活用力が不足
基礎・基本を問う問題については、数と式、方程式、二次関数の分野の基礎・基本の定着が窺えるが、扱う数が分数であったり、絶対値の記号の扱い、三角比などについての問題は、正答率が低く、計画的に1年次の内容を復習する機会や計算力を高めることが必要である。そのため、問題を考えるときに使用する公式や定理を選択したり、組み合わせるような応用力や活用力を問う問題を解く力は、まだ身に付いていない。

英語

共通問題正答率は、41.8%

基礎的な力は身に付いているが、応用的な力は不足

基礎的・基本的な語彙や文法、リスニングについては、概ねよく理解できている。正確な情報処理能力や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の理解力はまだ不十分である。多くの英文に触れることで身に付く実践的な英語力が不足しているものと思われる。

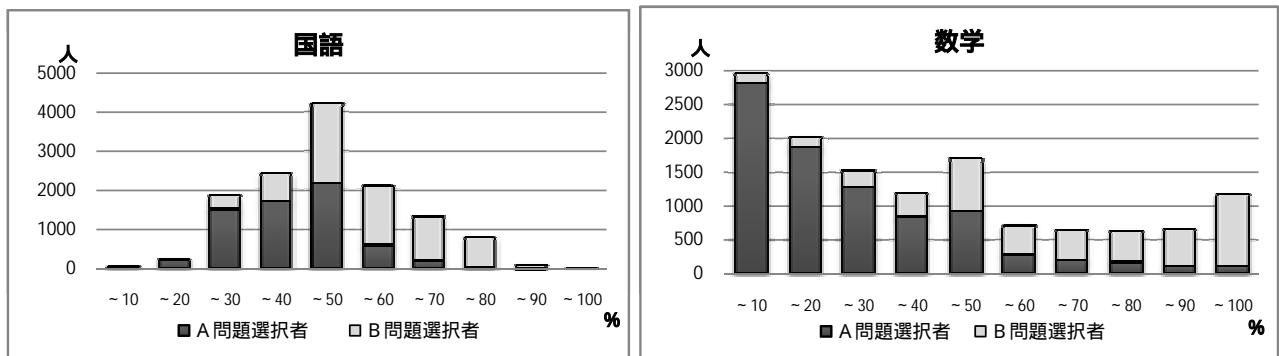
各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要

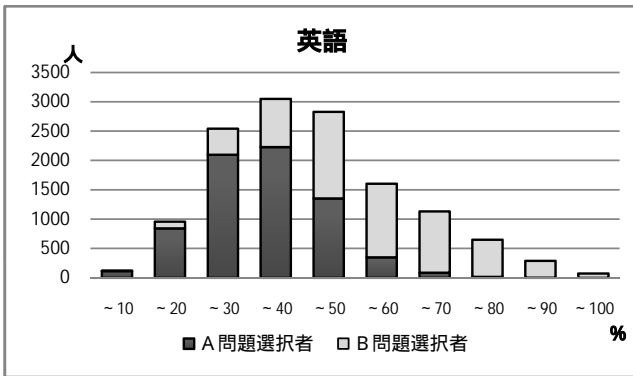
学校数は全日制本校70校、定時制9校、分校3校、岩ヶ崎篤沢校舎を1校の計83として集計した。

教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	56	27	64	19	59	24
調査人数	7,000	6,766	8,979	4,774	7,706	6,040
共通問題部分の正答率	38.5	53.2	23.7	62.7	32.5	53.6
A・B選択者別の全体正答率	38.5	50.4	18.8	44.6	31.4	50.0

図1 - 1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの





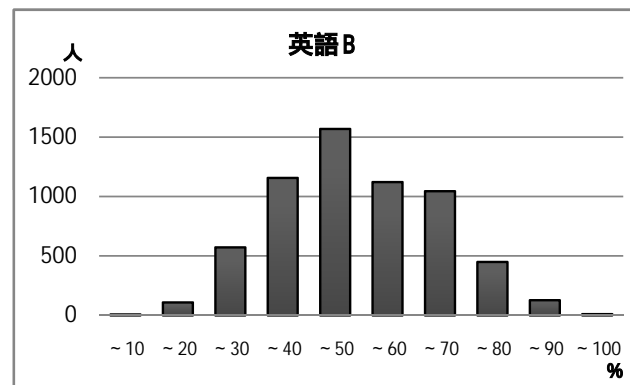
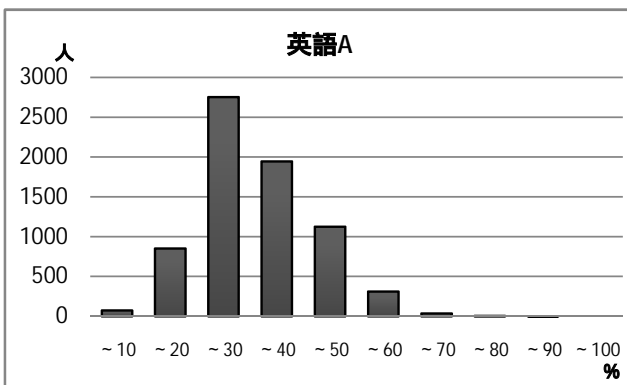
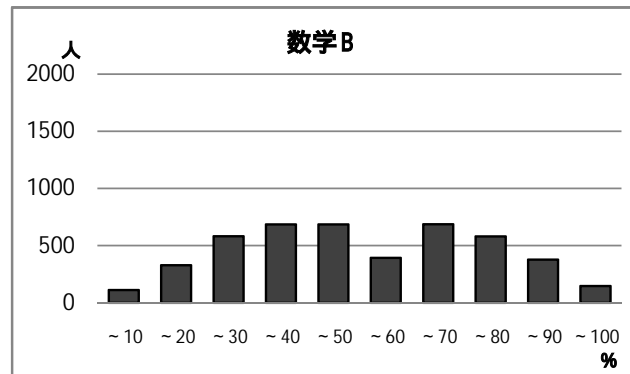
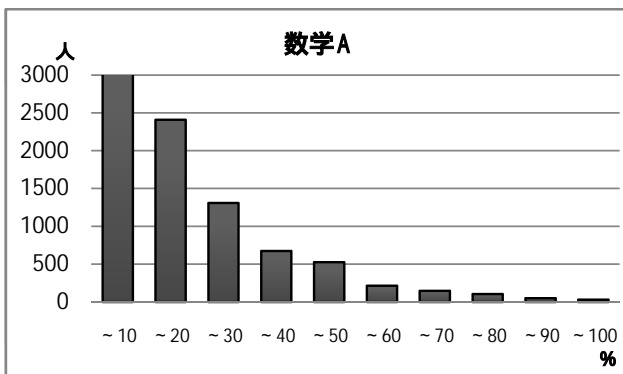
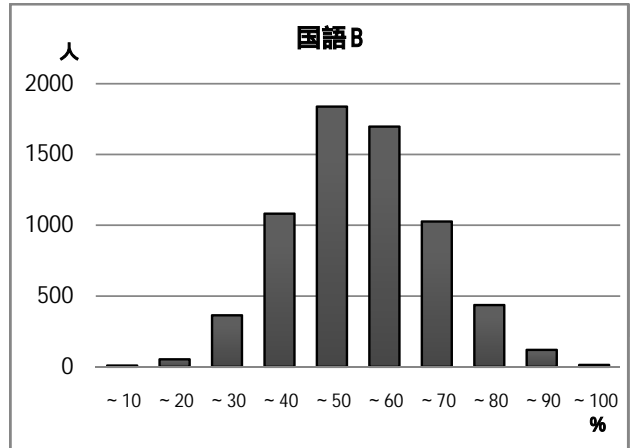
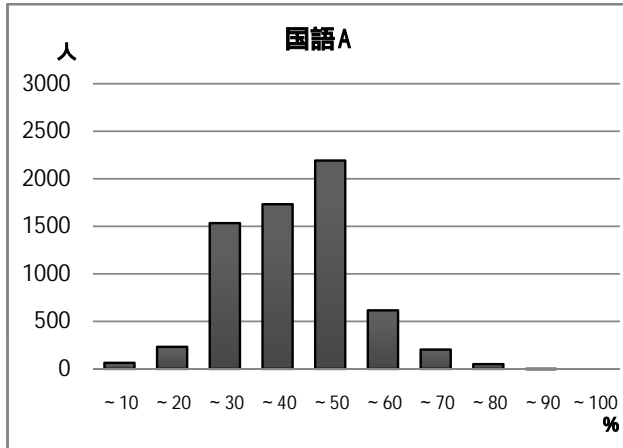
分析

数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、1年次に学習した基礎・基本の定着度に分野別ごとのばらつきがあることが原因と考えられる。

英語も数学と同じような傾向があり、正答率に広がりが見られる。これは、一定の時間で情報を処理する練習が不足していたり、語数の多い英文に慣れていないことが原因と考えられる。

3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な力がある程度身に付いていると考えられる。

図1 - 2 A問題, B問題別の正答率度数分布
各教科における共通問題部分を含めた全問題正答率の度数分布



2 2 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

国語

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

平易な漢字、身近な語句は正答率が高い。基本的な呼応表現もよく理解できている。
日常生活の中で使用頻度が低いが、国語学習上必要と思われる漢字の読み書きが不十分。慣用句、四字熟語に触れる機会も不足している。
敬語表現の正しい用法についての理解が不足。世間の誤用に流される面も見られる。

⇒ **課題 1：社会人として必要な言語能力の基礎となる知識が十分でなく、その習得機会の確保が急務である。**

論理的な文章では、文章中にある同様の表現をもとに内容の理解を深めることができる。
論理的な文章では、抽象的な表現を理解し、全体を把握する力が不足している。
文学的な文章について、登場人物の描写から心情を表す語句を抜き出し的確な言葉でまとめ上げる力が弱い。

⇒ **課題 2：部分的理解から全体的理解に発展しようとする動機付け、細やかな表現の丁寧な読み取りとそれを抽象概念に置き換えて表現する力を身に付けさせる指導の一層の工夫が必要である。**

基礎的な語句について、高校一年での既習事項は定着している。

古典を読むことに不慣れで、展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

⇒ **課題 3：古典に親しませ、自分の力で読み解いていく楽しさに気付かせるような指導の工夫が求められる。**

改善の方向



基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、言語事項を扱う時間、機会を意識的に確保する。言語事項の理解が社会への理解、適応力に結びつくよう、指導のステップや内容を工夫する。

- ・漢字は、生徒が日常生活で使う機会は少ないが、国語学習上必要と思われるものを特に重点的に取り上げ、活用の幅を広げる機会を工夫・確保する。
- ・慣用句、四字熟語については、それに触れさせる時間の確保が不可欠である。指導機会の設定を工夫する。
- ・敬語は、ケース・スタディと誤用の指摘、その裏付けとなる体系的な理解をバランスよく進めていくために、生徒の実生活、進路等を把握し、指導の機会を工夫し増やしていく。

論理的な文章では、対比的な内容を捉え、例示から導かれる主題を把握する力が付くよう、目を向けさせるための指導の手順を工夫する。また、文学的な文章では、登場人物の人間関係や時間軸を的確に把握し、細やかな心理描写を抽象的に捉えまとめ上げるための発問や指導法を工夫する。

- ・読解に向けた意欲的かつ能動的な姿勢を促し、文章内容をまとめ、図式化して文章を把握させるための指導の工夫を図る。
- ・抽象表現の理解には、抽象と具体の重ね合わせに多く触れることが不可欠である。用例を通して抽象語のイメージやニュアンスに触れさせる等、指導を工夫する。
- ・文学的な文章では、深みのある心理描写を丁寧に読み解くために「心理」「感情」を表す言葉に着目させ、それらの語を用いて登場人物の心情を文章にまとめさせたり、人間関係と時間軸を整理させたり、文章化して表現していく指導を意識する。

古典作品に触れる機会を増やし、古典に親しませる学習活動や教材を工夫する。基礎的・基本的知識が内容理解に大きく関わることに気付かせる教材や指導の工夫を図る。

- ・基礎的な語句や文法を確実に身に付けさせ、文章内容を理解させる指導の工夫を図る。
- ・現代でも使用されている語や古典特有の表現を足がかりにし、古典常識や身近に使用されている古典事項に触れさせる活動を意識的に行う。
- ・書き下し文や現代語訳を適宜活用し、文章内容を捉え、話の筋を楽しむとともに、学習が表面的な知識の暗記にとどまらないよう工夫する。
- ・音読や暗誦によって漢文・古文のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

数学

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

「数と式」、「方程式」、「二次関数」における基礎・基本を問う問題については、正答率が高いことから、基礎・基本の定着が窺える。

基礎・基本を問う問題でも、扱う数が分数であったり、絶対値の記号の扱い、三角比などについては、正答率が予想以上に低いことから、復習が必要である。

⇒ **課題1：2年次の授業や家庭学習において、1年次に学習した基礎・基本を継続的に満遍なく復習させる指導が不足している。**

公式を用いて答えを求めることは比較的身に付いている。

結論から遡って考えるなど、新たな発想で解くことを1年次に経験した問題は、正答率が伸びている。

三角比の定義を用いることができるように図を移動して考える問題や、正弦定理や余弦定理など、どの公式を用いるかを考える問題の正答率が低い。

複数の文字を扱うことや問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問は正答率が急激に下がる。

⇒ **課題2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、様々な数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ないため、公式を活用する力や根気強く考える力が身に付いていない。**

基本的な計算の力、簡単な方程式・不等式の解法など、正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題の正答率が高い。

二次関数の値がどのように変化するかを、グラフを通して調べる姿勢が身に付いていないため、定義域の両端に対する y の値を感覚的に最大・最小としている。

グラフから通る点を読み取り二次関数の式を求める問題は、頂点がすぐ読み取れるにもかかわらず正答率が低い。

⇒ **課題3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を、式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。**

改善の方向

- 1年次に学習した内容の復習による基礎・基本の定着を目指す計画的な学習計画で指導する。
- ・ 1学年末、1学年から2学年へ移行する春休みの期間、2学年での学習内容に、1学年で学習した内容を計画的に復習させる機会を設定する。
 - ・ 2学年の学習内容と1学年で学習した内容との関連性を系統的に整理させる。

数学を活用する態度を育成するために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・ 日常生活で体験する事柄を数学化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考える。

論理的に思考する力・表現する力を育成するために、思考力を互いに高め合い、自分の考えを表現しあう指導を工夫する。

- ・ 授業中の発問を工夫し、生徒に気付かせたり、生徒のつまずきを生かす視点をもつ。
- ・ 一般化することを急がず、公式や定理を導く過程を具体的な場合で振り返る。
- ・ 問題の解法が公式や定理を導く過程と一致しているものを扱い、公式や定理が役に立つことに気付かせる指導を工夫する。
- ・ 発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させ表現する機会を設定する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

- ・ ICTを活用するなどして、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にもなっていくように変化していくかを視覚的に捉えさせたりするなど、変化や動きを実感させる様々な指導を工夫する。
- ・ 与えられた条件式を、式変形だけで思考させず、グラフや表を利用して変化の様子や成り立つ関係を思考させる工夫をする。

英語

分析と課題

(……相当数の生徒ができています。 ……課題がある。)

簡潔で基本的な表現については概ねよく理解できている。

中学校後半に学習する文法・語法を使った英文にもかかわらず、情報整理が要求される英文では、内容を理解できていない。

⇒ **課題 1：それぞれの学習段階で英文を聞く機会が足りず、文の構造を理解する力が不足している。**

中学レベルの基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。

高校で初めて学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

⇒ **課題 2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法の知識が正確に身に付いていない。**

中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。

高校で初めて学習する文法・構文はある程度活用できつつあるが、語彙・語法レベルを上げながら活用できるレベルまでは到達できていない。

⇒ **課題 3：高校段階で学習する文法や構文を豊富な語彙を用いて英文を構成する力の育成が必要**

基本的な単語から類推し、長文の大まかな内容を把握することはできる。

語彙力や基本的な文法事項の習得が不十分で速読に対応できていないため、短時間で正確に内容を読みとり、必要な情報を整理することができない。

⇒ **課題 4：英文の内容を正確に理解し、必要な情報を読みとり、書き手の意向を理解するために必要な読解力が不足している。**

改善の方向



聞き取りの力を向上させるため、理解の土台となる語彙や基礎的な文法・語法の定着を図るとともに、英語を聞かせる機会を多く設ける。

・生徒のつまずきの段階を把握するとともに、必要に応じて「中学校の学習内容」も含めて、基礎的な語彙や文法・語法の定着を図る。

・英語を聞く機会を多く設ける。

・聞き取りの際に注意させたい文法・語法または内容など、ポイントやヒントを適宜与え、目的を持ったリスニング活動を多く行う。

・正確な聞き取りや情報整理を助けるための要点のまとめ方を身に付けさせる。

正確な語彙力、文法・語法力を養うとともに、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく使用しながら、反復練習を繰り返してその定着を図る。

・練習問題や小テストなどのトレーニングを何度も繰り返すことにより、高校レベルの語彙・文法の知識の定着を図る。

・生徒の実態を考慮しながら、オーラル・コミュニケーション以外の授業でも英語使用の機会を増やし、学習内容が運用レベルに到達するよう目指す。

・ALTを活用した会話中心の授業においても、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、語彙力・文法力の向上を目指す。

語彙力を高めながら表現する力を育成するために、英語で読む・書く・聞く・話すためのタスクの活用を図る。

・新出の文法や構文は理解させるだけでなく、説明した後に整序作文や自由英作文などの練習問題に取り組みせ、実際に使う機会を与える。

・コミュニケーション活動において、身に付けさせたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。

・単語や熟語はできる限り文または句の単位で練習させ、語法を理解するとともに英語運用能力が向上することを図る。

・宿題や小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせるなどにより、表現する能力のより確実な定着を図る。

読解力及び情報処理能力を養成するために、語彙と基本的な文法事項の定着を強化するとともに、言語材料の理解だけにとどめず、内容の把握を重視して指導する。さらに文章や段落の構成、文脈の展開などを踏まえて読みとるように指導することが大切である。

・語彙指導と文法事項を定着させるための具体的な取り組みを強化する。

・Q and A や T or F 等により、日本語を介さず英語による理解を促す。

・英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキミング、パラグラフ・リーディング等の様々な読解指導を体系的に行う。

・英文を読んだ後に要約させたり、意見や感想を書かせる等の情報を整理しまとめさせる活動を取り入れる。

・精読だけではなく短時間で必要な情報と概要を把握できるよう速読の指導を計画的に行う。

・スラッシュリーディングやCDを使用した eye-shadowing を行い、黙読・音読のレベルを向上させる。

3 1学年意識調査の結果と分析

過去の1年生との比較

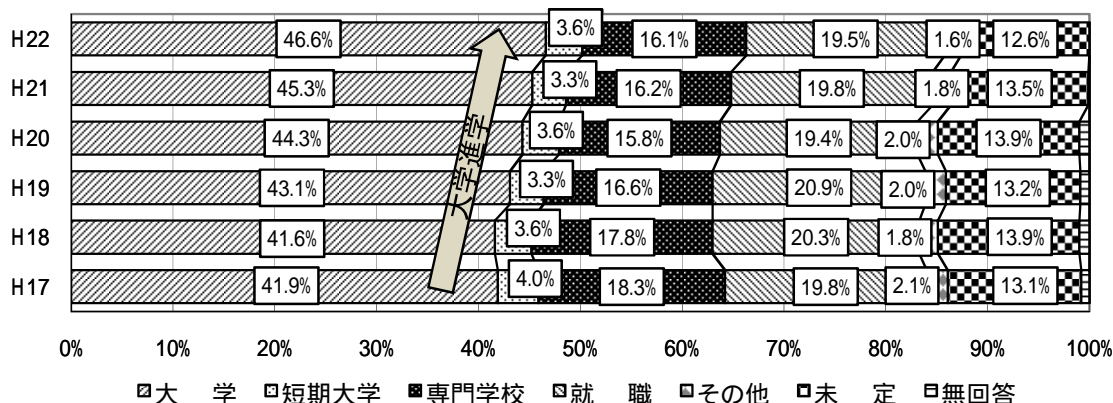
(1)「現在最も強く希望している進路は」

大学進学希望者が増加傾向

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H22	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%

<分析> 大学進学希望者が昨年度より1.3ポイント増加。就職希望者は微減

図2 進路希望別の割合の推移



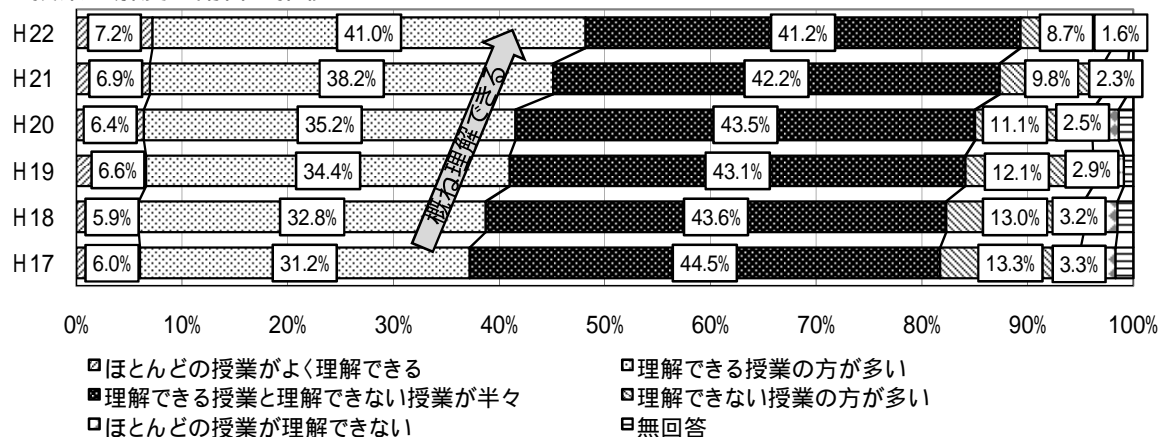
(2)「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H22	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が48.2%で昨年度より3.1ポイントの大幅増加

図3 授業理解度の割合の推移



(3) 「受けた授業はどんな授業か」

「分かる授業」「興味関心がもてる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H22	37.3%	7.5%	37.3%	13.2%	4.4%
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

<分析> 前年まで受けた授業1位「興味関心がもてる授業」に「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」が並んだ。発展的な内容まで教えてくれる授業も増加

(4) 「平日の学習時間」

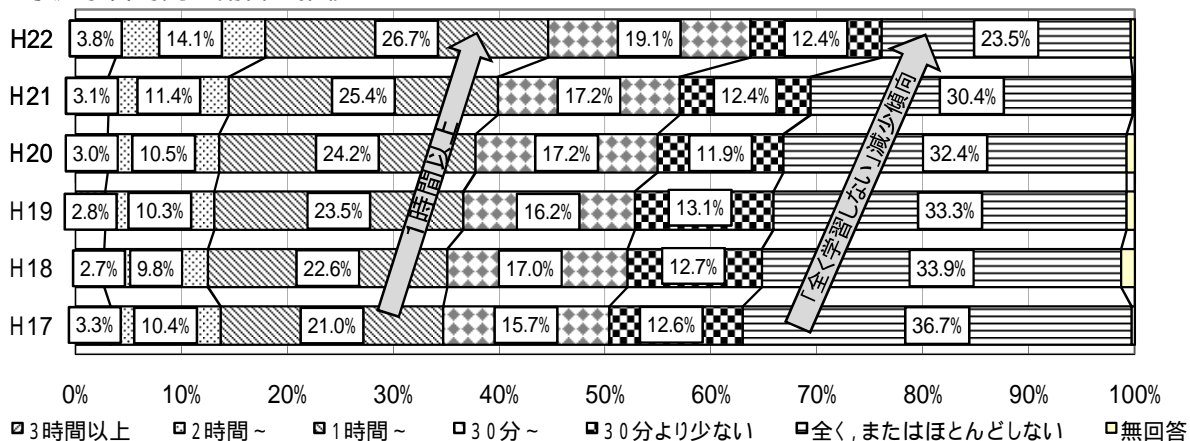
学習時間は全体的に増加傾向、2～3時間集中した学習が効果的

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H22	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%
H17	0.3%	0.5%	2.5%	10.4%	21.0%	15.7%	12.6%	36.7%

<分析> 平日の学習時間は昨年度よりも「2時間から3時間」が2.7ポイント増加、「全く、ほとんどしない」は6.9ポイントの大幅な減少

図4 家庭学習時間の割合の推移



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒は増加

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H22	20.5%	5.7%	8.4%	22.9%	7.9%	11.7%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	8.1%	4.4%	34.8%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているは昨年度より4.8ポイント増加し、調査開始以来初めて20%を超えた。

(6) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

宿題・課題、小テストが家庭学習習慣に好影響

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんど出ていない
H22	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんどない
H22	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

H20に新設した質問

<分析> 宿題・課題、小テストが増えている。このことが家庭学習習慣に好影響を与えていると考えられる。

(7) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

「方法が分からない」、「集中できない」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H22	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」が最も多く、「部活動との両立」が増加

(8) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

家庭学習増加、テレビ・ビデオ、ゲーム・パソコンは減少

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H22	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

* 「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

<分析> 「家庭学習」は3.4ポイントの大幅増加。「電話やメール」(20.5%)が2.2ポイント増加し、昨年まで1位だった「テレビやビデオ」を抜いて初めて1位になった。携帯電話への依存が高まっている可能性がある。

(9) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は増加傾向

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H22	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析> 朝食を「必ずとる」生徒は0.2ポイント増加で、「全くとらない」生徒は0.7ポイント減少

4 2学年意識調査の結果と分析

1年次・前年の2年生との比較

(1)「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H22(2年)	50.3%	2.8%	15.8%	23.1%	1.4%	6.2%
1年次	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
前年2年	48.2%	3.2%	15.7%	23.9%	0.2%	7.2%

<分析> 前年2年生より未定者が減少し、大学進学希望者は2.1ポイント増加。1年次より未定者が半減
 図5 進路希望別の割合の推移

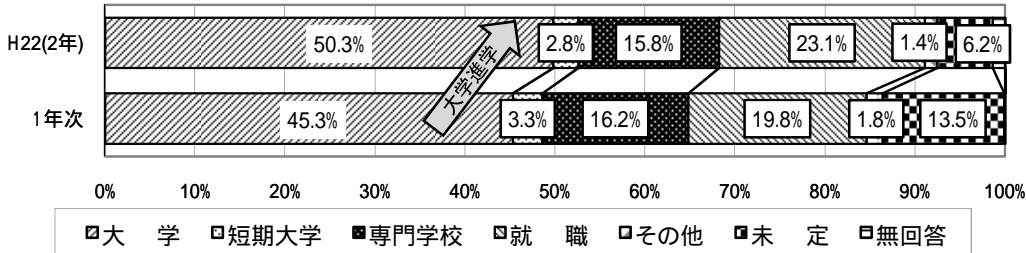


図6 - 1 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(共通問題)

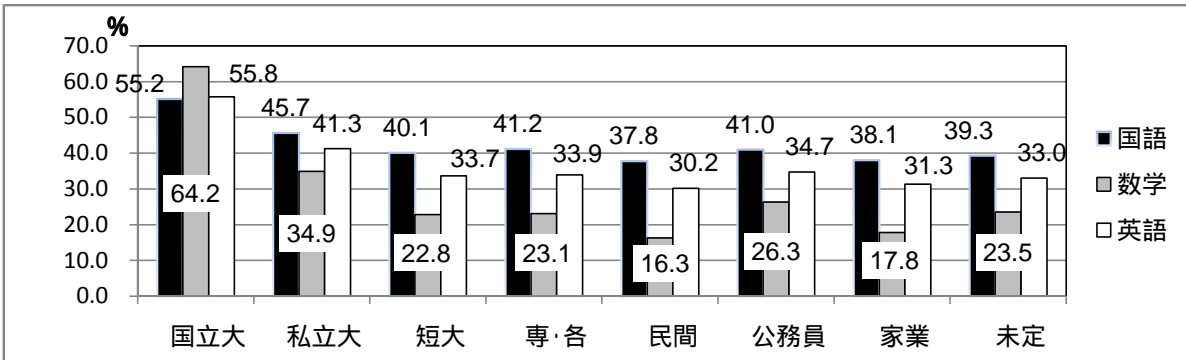


図6 - 2 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(A問題)

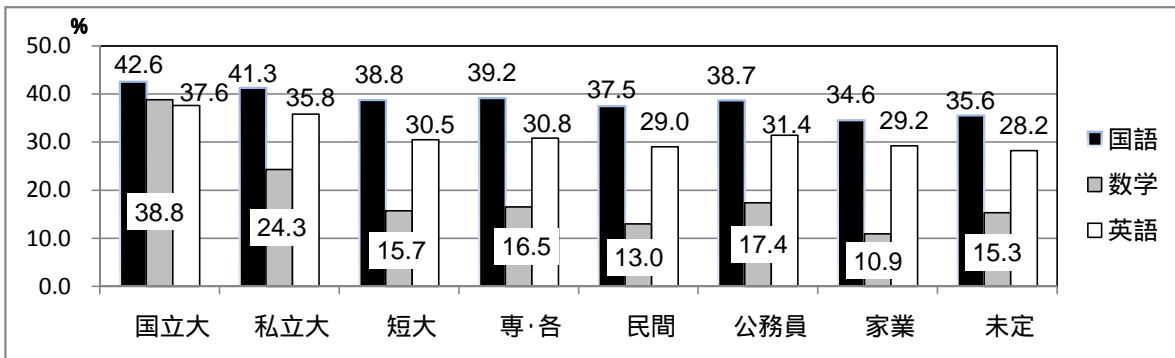
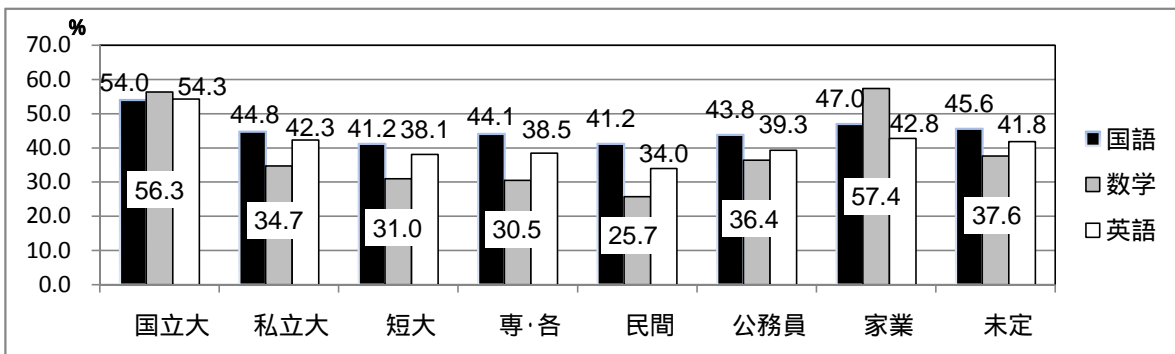


図6 - 3 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(B問題)



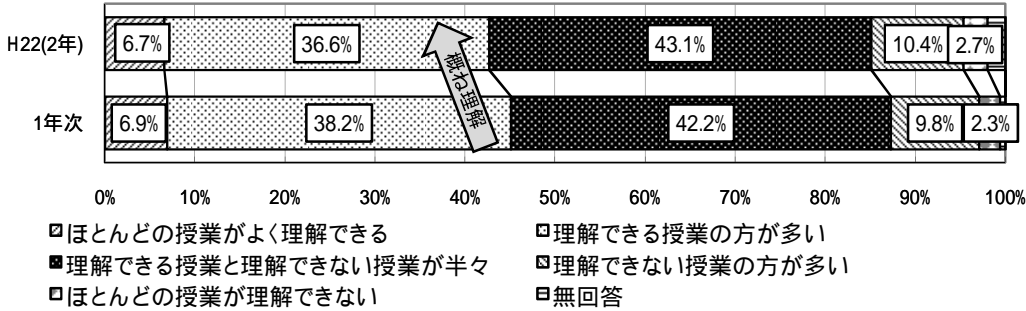
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも減少

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H22(2年)	6.7%	36.6%	43.1%	10.4%	2.7%
1年次	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
前年2年	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%

<分析> 「理解できる授業の方が多い」と回答した生徒が1年次より1.6ポイント減少。前年2年生よりも減少

図7 授業理解度の割合の推移



(3) 「平日の学習時間」

2～3時間集中した学習が効果的

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H22(2年)	0.3%	0.3%	2.0%	10.4%	23.3%	16.7%	12.3%	34.4%
1年次	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
前年2年	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%

<分析> 「全く、またはほとんどしない」は前年2年生よりは3.2ポイント減少ながら1年次より4.0ポイント増加、「2時間以上」はほぼ固定化

図8 家庭学習時間の割合の推移（上図：前年2年生との比較，下図：1年次との比較）

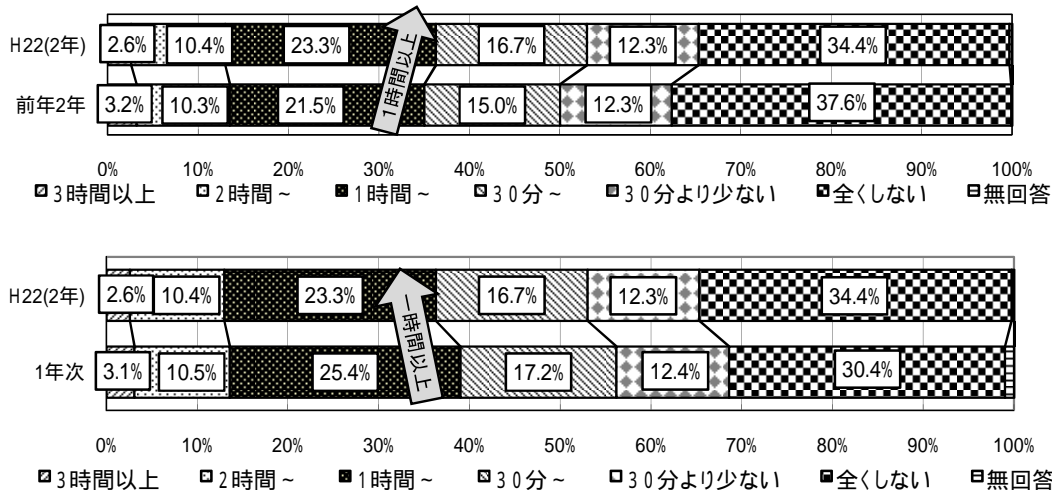
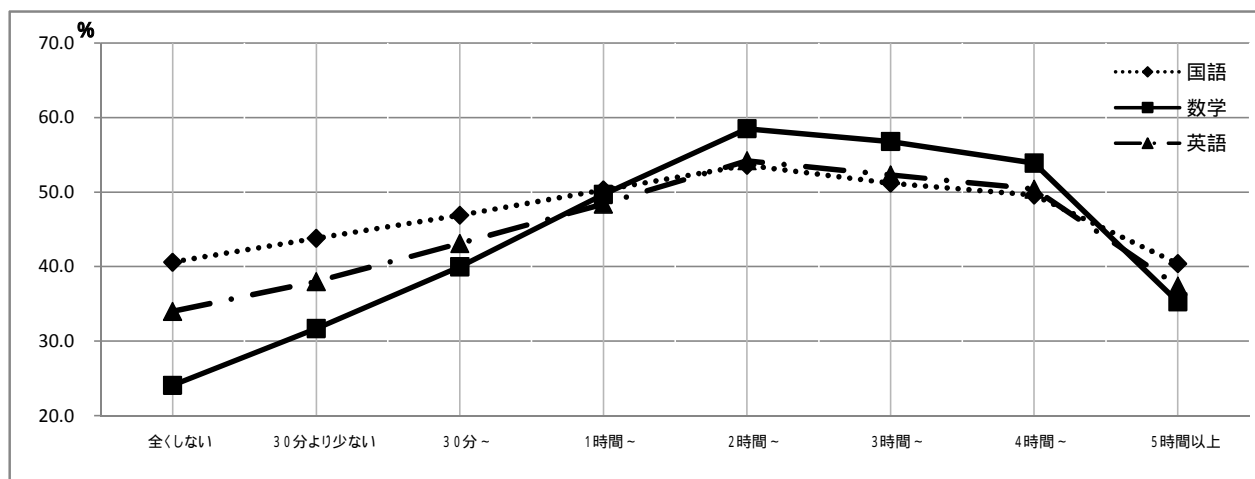


図9 家庭学習時間と各教科の共通問題正答率との関係



(4) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が1年次と比べ減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H22(2年)	15.4%	4.7%	6.6%	23.5%	5.7%	18.4%	1.3%	12.0%	11.1%	1.1%
1年次	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
前年2年	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているは前年2年生より0.4ポイント増加したが、1年次より0.3ポイント減少

(5) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

1年次より宿題・課題が減少、小テストは増加傾向

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

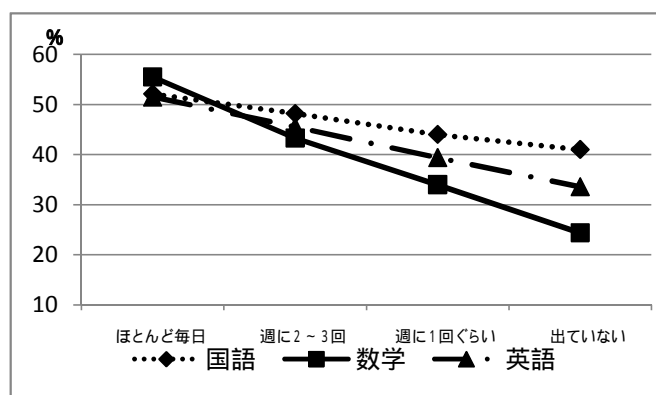
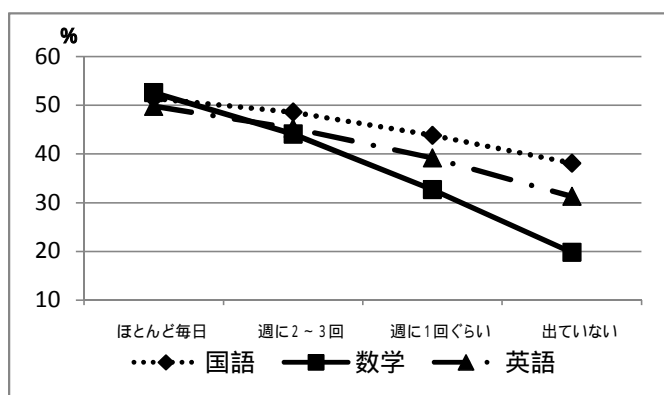
	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんど出ていない
H22(2年)	16.1%	33.1%	37.9%	12.6%
1年次	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
前年2年	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんどない
H22(2年)	12.1%	36.6%	30.6%	20.2%
1年次	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
前年2年	12.1%	31.4%	28.3%	28.1%

<分析> 「ほとんど毎日」または「週に2～3回」宿題・課題が出されるのは、1年次より2.6ポイント減少。「ほとんど出ていない」「ほとんどない」が前年2年生より減少。宿題・課題、小テストの実施率が高いほど正答率が高い。

図10 宿題・課題の割合と共通問題の正答率との関係

図11 小テストの割合と共通問題の正答率との関係



(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」 **1年次に比べ「集中できない」が増加、「部活動との両立」「方法が分からない」は減少**

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H22(2年)	14.6%	29.7%	15.1%	15.6%	6.4%	3.5%	14.8%
1年次	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
前年2年	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%

<分析> 「集中できない」が1年次より2.4ポイント，前年2年生より0.2ポイント増加。
 「部活動との両立」は1年次より2.9ポイント減少

(7) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」 **1年次に比べ「電話やメール」は減少，家庭学習は増加傾向**

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H22(2年)	6.6%	23.2%	14.4%	17.8%	3.1%	17.2%	4.3%	1.3%	11.6%
1年次	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
前年2年	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%

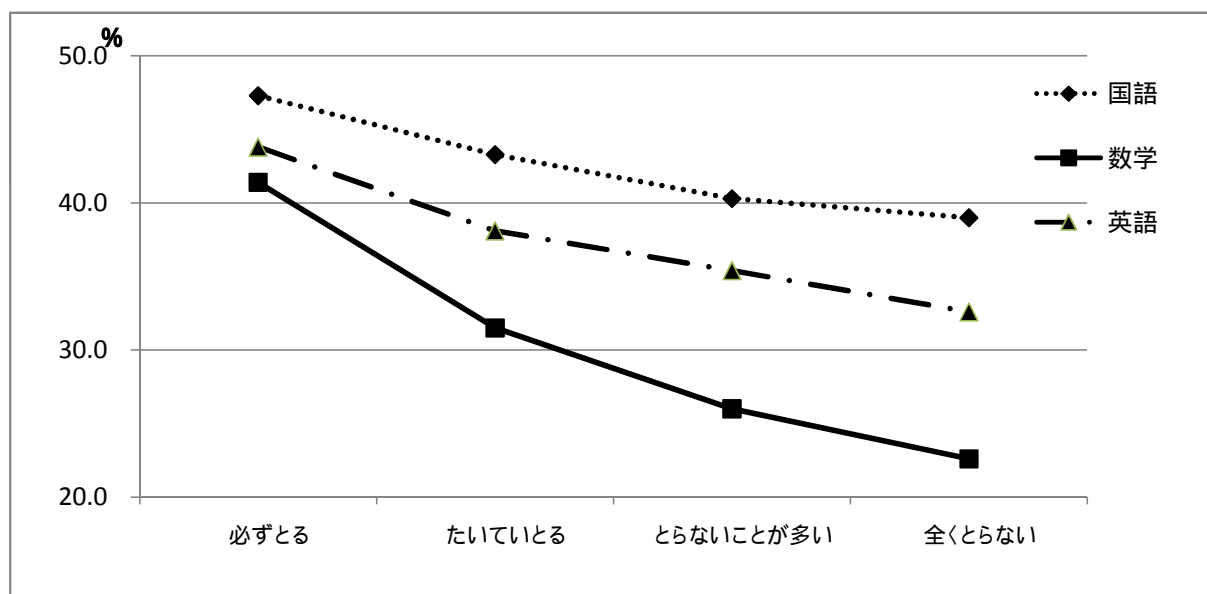
<分析> 「テレビやビデオ」，「電話やメール」は1年次より減少しているが，「電話やメール」については前年2年生より1.8ポイント増えている。家庭学習は増加傾向。

(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」 **朝食をとる生徒は前年より増加，1年次からは減少**

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H22(2年)	74.3%	14.4%	5.5%	5.4%
1年次	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
前年2年	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%

<分析> 朝食を「必ずとる」は前年2年生より増加しているが，1年次より2.9ポイント減少している。

図12 朝食習慣と共通問題の正答率



学力向上に向けた今後の取組

【各学校】

各学校では、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、必要に応じて義務教育段階及び高校1年生の学習内容の確実な定着を図る指導を2年次にも適宜取り入れるなどの工夫をした上で、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

授業改善の推進

「授業が理解できる」と回答した1学年生徒の割合が過去5年連続して増加しており、各学校とも授業改善に努めてきた結果が表れている。ただし、「授業が理解できる」と回答した2学年生徒の割合は1学年次より減少傾向にある。また、「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒は1・2学年とも約50%を超えており、分かる授業実現に向け、一層授業改善が望まれる。

家庭学習の記録簿や宿題・小テストを利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が1年次で初めて20ポイントを超えた。ただし、1・2年とも勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、休日も含めた家庭学習の計画を立てることの指導や、適度な量と質の宿題を課すこと・授業においてより一層小テストを実施することなどを指導計画に取り入れる工夫をする。

学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、家庭学習を推進する上で、より一層学校と家庭の連携が必要である。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、新高等学校学習指導要領の趣旨の周知に努めるとともに、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。

